

ちよつといひ話

～ 七 草 ～

21 年 1 月 31 日

七草は「善光寺如来様」の御縁日（旧暦の一月六日）に法要が厳修されます。一光三尊善光寺如来様とは一つの光背の前に阿弥陀様と観音様と勢至菩薩様の三尊が祀られています。一般に馴染みの薄い佛様は右側の勢至菩薩様です。勢至菩薩様は観音様が慈悲をもって衆生の済度（救済）されるのに対して智慧を以って我々を救済してくださるのです。三尊禮に「智慧超三界」とあります。三界とは欲界・色界・無色界（肉体的欲望、物質的欲望、精神的欲望）に苦しむ此の世の事です。まさに此の世は苦の中にあります。勢至菩薩様は信仰する我々に智慧を与えてくださり、救済の道を開いて下さる佛様です。

前清水寺貫主大西良慶老師は「今日一般の人情では我が身の今日を幸福と思惟することなく、また周囲に対してもその恩恵を感謝せず、ただ権利の主張のみに没頭するのは根本執着の業で、むしろ当然の本能だとさえ思うのでありましょうが、大いに反省を要することであります。私達は日夜合掌して〔人身受け難し、今すでに受く、仏法聞き難し、今すでに聞く〕と称えて心をしずめ、心を清め、相互に尊重し合い、相互に扶助し合い、相互に協力し合い、人類の安寧平和を希求念願している次第で、偉大な観音様の『弘誓深きこと海のごとし』『念念疑いを生ずるなかれ』の金言を受持し、同信同行、手を取り合ってまいりたいと念ずるものであります」と話をされています。まさに今日の現状を指し戒めてみえる事でしょう。観音経にも耳慣れない言葉が沢山出てきます。例えば、優婆塞は仏道に入った在家の男子ですし、優婆夷は在家の女子ですし、乾闥婆は天上の音楽師ですし、迦楼羅は巨鳥金翅鳥の事ですし、緊那羅は美しい歌声をもつ仏法を守護する神ですし、摩睺羅迦は蛇神ですし、施無畏者は観世音菩薩様の異名ですし、悪趣は地獄の世界です。因みに観音様は沢山みえますが修羅道にある人の精神分裂症を治すには十一面観音様を信仰されると良いし、たえず欲求不満を抱く人には千手観音様を信仰されると良いでしょう。この様に観音様には其々得意の分野がご

ざいます。又、西国等 33 観音霊場巡りがございます。この 33 という数は女性の大厄が 33 歳ですから、観音霊場巡りの札所を決めるに当たって 33 という数は当然の事だと私は思います。又、空海大師四国 88ヶ所巡りもございますが高野山奥の院を加はえて 89ヶ所となり、まさに⁸⁹厄を落とす為に、皆様お参りされるのでしょうか。88については四国へ巡拝されました同行の方々には色々な角度から説明させて頂きました。

空海大師様の「いろはうた」のようにはいきませんが私なりに「あいうえお」に当てはまる言葉を探してみました。皆様も如何ですか。

あ^{あいみたが}：相身互いは い^{いんねんいんが}：因縁因果で結ばれて う^{ういてんべん}：有為転変の世の中を え^{えいようえいが}：栄耀栄華に暮らす夢 お^{おん}：恩を忘れて親も悲しむ。か^か：過去・現在・未来へと き^{きぎょうほっしんりんね}：起行発心輪廻の解脱 く^く：苦海を乗り越え け^{けう}：稀有の成就 こ^{こんせ}：今世で極楽、後世で安楽。さ^さ：娑羅双樹の木の下で し^し：釈迦が涅槃に入られると す^{すいえん}：随縁見事に花が咲き せ^せ：善男、善女も驚き集まり ぞ^ぞ：僧侶も最後の説法聞けた喜び尊者冥利でございます。 た^た：大願は阿弥陀如来の48願 ち^{ちえ}：智慧にて知見し づ^づ：培う陰徳、お他力滅罪 て^{てんもうかいがいそ}：天網恢恢疎にして漏らさず と^と：同信同行菩提心を発して所願満足。 な^な：南無阿弥陀仏と称える我らに こ^こ：にっこり微笑む阿弥陀様、どうか日日是好日に願います ぬ^{ぬし}：主も心を真に運び信心堅固に暮らします ね^{ねはんじゃくじょう}：涅槃寂靜、念佛三昧 の^{のうけ}：能化、所化一期一会の機を生かし。 は^{はいぶつきしゃく}：廃仏毀釈もなんのその ひ^{ひぼうちゅうしょう}：誹謗中傷乗り越えて比叡山に高野山、各宗各派の佛閣寺院 ぶ^ぶ：不思議な御加護で守られて不惜身命、布教が途絶える事もなく へ^{へんせん}：変遷を経て今日に、当山は一光三尊善光寺如来様、大日如来様、地藏菩薩様に諸菩薩と弘法大師に善導大師、法然上人を御安置でき寺門の興隆益々深く ほ^ほ：佛様に父母兄弟と朋友に天地自然の恵みにも報恩感謝を致します。 ま^{まやぶにん}：摩耶夫人は釈尊を御産みになった み^み：身代りに七日の命で忉利天に生まれたと む^む：無常も諸行は因縁なり、仏陀の誕生真に稀有なり め^め：目出度いながらも娑婆は無情か も^も：目連尊者も釈迦の一弟子、母を助けた御縁を今も頂く施餓鬼の作法。

善 壽 界 善 入 院 油 掛 地 藏 尊